

(様式 2)

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書

平成 25 年 9 月 10 日

所属：工学資源学部地球資源学科

学年 4 年次

氏名：齋藤貴明

研修先大学・機関名等（国）：MacroAsia Mining Corporation, Philex Mining Corporation,
フィリピン大学国立地質学研究所（フィリピン）

在籍身分：

渡航年月日：2013 年 8 月 9 日

帰国年月日：2013 年 8 月 24 日

○研修先での学習内容等

8 月 11 からルソン島にあるサントトーマスⅡ鉱山内部を見学, その鉱山のボーリングコアの観察をし, 8 月 15 日からはそのネグロス島南西部の貫入岩とその周辺に形成された鉱床の特徴を調査するために, Basay 地域の野外調査や, その周辺のボーリングコアの観察を行った. 8 月 22 日にはフィリピン大学内を案内してもらい, 大学の地質に関わる博物館の中を見せて貰った.

○研修期間の生活面について

午前 7 時半頃にみんなで集まって朝食を食べ, ボーリングコアの観察は午前 8 時頃に始まり, コアの観察とサンプルの採取, 帯磁率の測定等を行い, 12 時~午後 1 時までは昼休み, 午後 4 時頃に終了した. そのあとは午後 7 時頃また集まって夕食を食べ, その後データ整理などを行い, 午後 11 時頃に就寝した.

○研修期間全般にわたる感想

私は今回, 海外に行くことが初めてで, もちろん周りに日本語が全く通じないという環境に滞在することも初めてだった. 英語で自分の意思を伝えるという事より, まず相手が何を伝えたいのかを理解するのが大変だと感じた. これから研究室にいる留学生ともっと会話をして英語を聞く能力を身につけたい. また, フィリピンの日本とは異なる食事などの文化などに触れることもでき, とても良い機会だったと思う.

○今後の勉学計画

採取してきたサンプルの XRD, XRF, 顕微鏡観察, 流体包有物などから得られた実験結果から, ネグロス島南西部の岩石とその周辺に形成された鉱床の特徴を明らかにする.

(様式 2)



1. 野外調査の様子



2. ボーリングコア観察の様子（後ろは MacroAsia 社の Rogel Santos 博士）